

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中小学校	学校 No.	31
-------	------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)

SDGsの目標3〔保健〕の分野に、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」とある。本校では、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとしている。本年度は、SDGsの内容とも関連させて、「総合的な学習の時間」や学校行事において身近な福祉に目を向けた教育活動を展開した。

2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)**(1)N-1グランプリ(総合的な学習等)の開催**

「温かい笑いで学校を包む」ことを目標として教育漫才「N-1グランプリ」を3年連続で開催した。「コミュニケーション能力」や「情報発信能力」を高めることをねらいとし、年齢や障害の有無を問わずみんなが楽しめる企画は今年度も保護者や地域の方に好評であった。特別支援学級に在籍する児童も交流学級の児童と同じ舞台に立ち、のびのびと漫才を披露し、会場から温かい拍手が沸き起こった。

(2)福祉実践教室(総合的な学習)

5年生が車いす体験と発達障害理解の講座を受けた。実際に車いすで生活をしている方の話を聞いたり車いすの体験をしたりすることで、障害のある方の苦労などを知ることができた。発達障害理解では、だれもが目に見えない違いや心の悩みをもっていることを知り、個の特性を受け入れ「みんなちがってみんないい」という思いをもつことが大切だと気づいた。

(3)募金活動

児童会と代表委員が中心となって、積極的な募金活動を展開した。2学期の「赤い羽根募金」は、3日間実施し、多くの善意が集まった。また、1月1日の「能登半島地震」の支援活動に有志の児童が声をあげ、募金活動を実施した。学校公開とも重なり、多くの保護者にも協力いただいた。募金は中日新聞社会事業団を通し被災地へ届けられる予定である。

(4)「赤い羽根」啓発作品への参加

毎年、夏休みに実施している「『赤い羽根』作品コンクール」に多数の児童が参加し、作品を出品した。

(5)人権週間の取り組み

各学級で担任による読み聞かせ(紙芝居・絵本等)を実施した。また、各学級のスローガンを考え、全校への発表を行い、その後各教室内に掲示した。いじめをなくすための標語づくりを全学級で取り組んだ。1・2年生は人権擁護委員さんに来校いただき、人権教室を開催した。開催の前にはイメージソング「世界をしあわせに」を昼の給食時に放送して意識を高めた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

福祉実践教室では、実際に車いすで生活している方の話を聞いたり誰にでも目に見えない違いや目に見えない違いがあることを知ったりすることができた。実践後の感想からも「みんなちがってみんないい」とそれぞれに個性があることを知り、それを受け入れることが大切だと気付いた児童が多かったと感じている。また、本来、助け合いの心や実践は、学校や家庭、地域の中で育てていくものだと考えている。実践教室があるから事前に学習するのではなく、福祉実践教室がいつも行っていることや疑問に感じている問題を解決する場として、意義のある時間となるよう普段から子どもの心を耕していきたい。今後も温かい交流を通して心豊かな人間になることができるように実践を進めていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋東小学校	学校No.	32
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は、「知・徳・体の調和のとれた、未来を拓くたくましい児童の育成を図る」を教育目標に、「自ら学び自ら考える子」「自らを律し、他を思いやる子」「健康で、意欲的に活動する子」をめざす児童像として教育活動を実践している。日常の学校生活や道徳、総合的な学習の時間等を通して、福祉の心と実践力を持った児童の育成を目指し、福祉推進実践校として以下のように取り組んだ。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 児童会活動を中心とした活動 異学年交流として、年度初めに顔合わせのペア活動を行った。お互いに手紙を書いて交換し、上の学年が計画した遊びで交流した。また、縦割り班によるなかよし清掃、ペア学年によるわくわくフェスティバル等、上級生が下級生をリードして活動を行う交流を実践した。</p> <p>(2) 福祉実践教室 5年生児童が、1月19日（金）に社会福祉協議会の方々を講師に迎えて車いす体験とガイドヘルプ体験を行った。実際に体験することで、その大変さを理解することができ、手助けをするには何ができるか考えるようになった。</p> <p>(3) 地域の方々とのふれあい活動 地域ボランティアや老人会の協力で、伝統文化等を体験することができた。 1年生…昔遊び 地域の方に学校に来ていただき、こま回しやお手玉などを教えていただいた。 2年生…町探検 地域の農家の方にお話を伺いに行った。調べたことを班ごとにファイリングした。 3年生…きなこ作り 地域の方に学校に来ていただき、大豆からきなこに変わる過程を、実際に活動しながら教えていただいた。 4年生…グラウンドゴルフ 老人会の方に学校に来ていただき、ゲームを楽しんだ。 5年生…稲刈り 農家の方に教えていただきながら、田植えや稲刈りを体験させていただいた。 6年生…しめ飾り作り 老人会の方に来ていただき、作り方を教えていただいた。 どの学年も、活動の後にはお礼の手紙を書き、地域の方々とのつながりを深めることができた。</p> <p>(4) 道徳の学習を通して 道徳では、自他の生命を尊重し、他者や社会との関わりの中で、多様な価値を認めながら自分を見つめ直し、自分だからこそできる役割があることに気づかせ、勇気をもって行動することができる児童の育成を目指している。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>ア 成果 児童会活動を中心とした異学年交流を通して、互いの存在を認めあう心を育てることができた。また、見守り隊やふれあい活動でお世話になっている地域の方々との交流から、地域に見守られていることを再確認し、感謝の心を育てることができた。さらにお礼の手紙を書くことで、活動を振り返り、気持ちを形に表す大切さに気付くことができた。</p> <p>イ 今後の課題 あいさつやコミュニケーションが苦手な児童がまだ多い。マスクを外したがいなかったり、目を合わせることを苦手としたりする児童がいる。ただ、幸いなことに、本校は地域の方が積極的に声をかけてくださる環境があるので、今後も交流活動を積極的に行い、さらに福祉や思いやりの心を育てていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立起小学校	学校NO.	33
<p>1 社会福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目標 高齢者や障害のある人たちにとって、住み良い社会とはどんな社会なのかを体験活動を通して考え、自分たちができることを調査・追究することができる。</p> <p>(2) 計画 【1学期】福祉実践教室、福祉について調べ学習を行い、福祉についてまとめる。 【2学期】5年生の国語の時間の意見文を書く活動、赤い羽根共同募金への参加</p> <p>(3) 推進体制 福祉教育部会を組織し、各学年と調整して計画を具体的に推進する。 5年生が中心になって募金活動などを計画し推進する。</p>			
<p>2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室 5月30日</p> <p>事前に各学級で「思いだしてごらん」を活用して、福祉について学習を行った。福祉実践教室には、5年生72名が参加した。はじめに「福祉」について全体講義を聞き、その後、「車いす」、「点字」、「ガイドヘルプ」の3つのコースに分かれて各体験活動を行った。</p> <p>車いす体験では、車いすの操作の仕方を聞き、実際に段差を超えたり、狭い通路を通ったりすることの難しさや大変さを学ぶことができた。点字体験では、点字のきまりを学んだ後、実際に点字を読んだり、書いたりして、目の不自由な人にとっての点字の便利さとありがたさについて学んだ。ガイドヘルプ体験では、2人1組となって、アイマスクをした状態での階段の上り下りや、障害物のある道の通行を体験した。目の不自由な人の「見えない」という不安な気持ちを知るとともに、目が不自由な人を誘導する難しさを知ることができた。どの児童も、初めての体験で、障害をもった方々の苦労や生活における工夫を知ることができた。実際にやってみて、生活していく上での大変さを理解すると共に、だれもが過ごしやすい社会をつくっていくためにどうすればよいのかを考えるきっかけを得ることができた。</p> <p>(2) 5年生の国語の時間</p> <p>福祉実践教室での体験活動後、図書館にある本や資料、インターネットを活用して調べ学習を行った。その後、国語の「みんなが過ごしやすい町へ」の単元で、だれもが過ごしやすくするためにはどうすれば良いかについて自分の考えをまとめる意見文を書いた。福祉実践教室での体験やこれまでの経験談をふまえ、これからの社会のあり方について考えを持つことができた。</p> <p>(3) 街頭での赤い羽根共同募金活動</p> <p>赤い羽根共同募金活動では、地域の商業施設に出かけ、校区の住民に募金活動への呼びかけを行うなどした。</p>			  
<p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>5年生では、「福祉」をテーマに国語の時間に学習を進め、多くの児童に「だれもが過ごしやすい社会にするにはどうすればよいか」を考える意識が高まった。実際に体験することで、自分たちは、身体の不自由な人達とどのように接したらよいか、日本の社会全体がどうあるべきかについて考えることができた。また、地域の住民やお年寄りとの関わりを通して、思いやりの心を育てることができた。一方で、身近な人達との接し方に還元することまでいくことができなかった。</p> <p>今後も、児童が自ら福祉について学び、より深く理解していけるように見つめる心と実践力をつけていきたい。</p>			

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立三条小学校	学校No.	34
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>①総合的な学習の時間における、福祉に関する学習</p> <p>【目的】</p> <p>福祉に関する調べ学習を通して、社会福祉への関心を高めるとともに、「豊かな人間性」や「共に生きる力」を育むこと（活動対象）4年生</p> <p>② 尾西公園美化活動</p> <p>【目的】</p> <p>地域の公園を、異学年と地域のお年寄りを交えたグループで清掃することを通して、年齢を超えた地域の絆づくりを行う。（活動対象）2・4年生（春） 3・5年生（秋）</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>①総合的な学習の時間における、福祉に関する学習</p> <p>(1)インターネットを活用した調べ学習</p> <p>図書室で調べた中で、興味を持ったことについて、インターネットを使ってさらに詳しく調べた。</p> <p>(2)福祉実践教室</p> <p>グループごとに手話、点字、車いすの各体験を通し、見えない、聞こえないことの困難さを知り、様々な特性を持った人たちと共に生きる力を育んだ。</p> <p>(3)壁新聞形式での発表</p> <p>学年廊下に掲示して、他のグループの児童が調べ、学んだ内容を共有した。また、個人でスライドを作成し、発表会を行った。</p> <p>②尾西公園美化活動 5月2・4年生 11月3・5年生 8:30～10:20 尾西公園にて草むしり、落ち葉集めを行う。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>【成果】</p> <p>福祉実践教室では、手話、車椅子、点字のグループに分かれて体験をした。子どもたちは講師の先生の話真剣に聴いたり、初めて使う道具や手話に戸惑いながらも集中して活動することができた。</p> <p>尾西公園美化活動では、異学年集団で地域のお年寄りと共に、公園の美化活動を行うことを通して、地域の方や異学年との結びつきが生まれている。また、清掃活動に対する意欲も高められている。</p> <p>【課題】</p> <p>今年度も体験活動を通して学ぶ機会を設けることができた。今後も豊かな人間性や共に生きる力を育てるには、さらにさまざまな体験活動を取り入れていくとよいと感じた。</p>			







令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立小信中島小学校	学校No.	35
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 目 標 福祉の町として、住みよい街づくりをするために自分たちにできることは何かを考えさせ、福祉に関する実践力を高める。</p> <p>(2) 計 画 福祉について知る・福祉実践教室の開催・一人暮らし老人の方へ年賀状・総合学習での追究。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉について知る</p> <p>福祉の新聞記事を読んだり、インターネットを使ったりして、地域の福祉の実態や取り組みについて調べるなどした。また、調べ学習に生かせるようにした。その後、インターネットや本を使った情報収集、同じテーマをもった子たちとの情報交流などを行い、様々な表現手段を用いて用紙にまとめた。</p> <p>(2) 福祉実践教室の開催 9月</p> <p>認知症理解は全員、車椅子・手話・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験の中から1つ選び、体験を行った。</p> <p>(3) 一人暮らしの老人の方へ年賀状をおくる 12月</p> <p>一人暮らしの老人の方々に孫になったつもりで、楽しいイラストや温かな文面で年賀状をかいた。</p> <p>(4) 総合的な学習の時間での追究</p> <p>福祉の新聞記事、インターネットを使った調べ学習で、疑問に思ったことやもっと調べたいことなどから、テーマを決めた。その後、インターネットや本を使った情報収集、同じテーマをもった子たちとの情報交流などを行い、様々な表現手段を用いて模造紙にまとめ、発表を行った。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>調べ学習等を通して、福祉に対しての理解が深まった。そして、障害のある人の気持ちに気付き、共に生きるために自分ができることを考えようとする児童や地域の福祉施設について関心を持つ児童が増えてきた。福祉実践教室を通して、障害のある人の気持ちをより深く感じることができた。今後も「福祉」に対する理解を深める指導を継続していくとともに、生活の中で障害者の方に出会ったとき、学習したことが生かされるようにしていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立朝日東小学校	学校 No.	3 6
1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">【学校教育目標】</p> <p style="margin: 0;">「もっといい自分」を目指す 心豊かでたくましい朝東の子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いのちを大切に、心と体を鍛え、たくましく生きる子 ○ きまりを守り 人と協力できる子 ○ やさしく 思いやりのある子 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">【福祉教育目標】</p> <p style="margin: 0;">児童の社会福祉への理解を一層深め、体験活動を積み重ねることができよう行事等を計画し実践する。</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">【重点事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ運動 ○ 社会福祉体験活動 ○ 地域の講師を招いた体験活動（華道） ○ 募金活動 ○ 見守り隊感謝の会 </div> </div>			
2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）			
<p>今年度から、新型コロナウイルス感染症の感染症法の分類が5類へと引き下げられ、様々な行事活動がコロナ前へと戻りつつあるが、一度に全て復活させることはできず、地域交流活動や大勢の人が集まる活動においては、現状を踏まえながら徐々に増やしていった。その中でも、校内では本年度も外部講師を招き、様々な取り組みをおこなうことができた。</p>			
<p>【9月8日 福祉実践教室 5年生】</p> <p>5年児童を対象に視覚障害者ガイドヘルプ、車いす体験、手話体験、点字体験の4つの内容で実施した。講師の方々から、日常生活の暮らし方や生活している中で困ることなどのお話をいただいた。話を聞く中で学んだことを、更に実際に体験することで、児童はより学びを深めていった。</p>			
			
			車いす体験
<p>【1月31日 華道体験 6年生】</p> <p>6年生を対象に、地域の講師の方を招いて華道体験を実施した。毎年、日本の伝統文化を体験する目的で行っている。講師の方から講話を聞いた後、華道体験に取り組んだ。児童は、講師の方から丁寧に指導してもらい、各々の発想で花を生けていった。貴重な日本の伝統的な文化を体験することができた。</p>			
			
			華道体験
<p>【2月 能登半島地震災害支援募金活動 全学年】</p> <p>5年生の児童から、「募金活動を行い、少しでも被災された方々や地域を支援したい」との要望が出た。募金を呼びかける掲示物を作成・掲示し、募金箱を持って各クラスを回った。学校公開日には、PTAの方のご協力もあり、地域の方々からの支援も得られた。</p>			
			
			能登半島地震災害支援募金活動
<p>【3月7日 見守り隊感謝の会 全学年】</p> <p>今年度も登下校を見守ってくださった見守り隊の方々へ感謝を伝えるため、「見守り隊感謝の会」を開いた。お世話になった見守り隊や駐在所の方々に、手紙や花束などを手渡して、1年分の感謝の気持ちを伝えた。</p>			
			
			見守り隊感謝の会
3. 福祉教育の成果と今後の課題			
<p>今年度も感染症に留意しながら様々な取り組みを行うことができた。地域の方との交流や、他文化を学ぶ活動を通して、豊かな心を育成することができたと思う。</p> <p>来年度も、福祉実践教室や地域の方との関わりを通して、児童に相手を思いやる心を育成したり、地域社会の一員としての自覚を高めさせたりしていきたい。</p>			